

戦争の惨禍を語り継ぎ、平和といのちの尊さを伝える 「東京都平和祈念館（仮称）」の建設を！

東京都知事殿
東京都議会議長殿

【趣旨】

東京都が「平和祈念館（仮称）」建設の「凍結」を解除し、一日も早く建設するよう求めます。

【理由】

わが国は、先の大戦においてアジア太平洋地域の人びとなどに多大の被害をもたらすとともに、自らも多くの犠牲をはらい、身をもって戦争の悲惨さと平和の尊さを経験しました。この戦争のなかで、アジア・太平洋地域の人びと2000万人以上、日本人310万人が犠牲となりました。東京では1945年3月10日の大空襲をはじめ100回をこえる空襲をうけて10万人以上の人びとが犠牲となり、300万人が焼け出される被害を受けました。さらに1945年8月には、広島、長崎に原子爆弾が投下され、その年の暮れまでに20数万人が犠牲となり、辛うじて一命をとりとめた人びとも、60数年経ったいまなお原爆症等で苦しみ、悩みつづけています。

あの戦争の惨禍を語り継ぎ、再び繰り返さない決意のもとに、平和と命の尊さを伝える「東京都平和祈念館（仮称）」を建設して欲しいという思いは、戦後早くから多くの都民の切望するところでした。

これまでに東京都は、大規模な空襲のあった3月10日を「東京都平和の日」とする条例を1990

【呼びかけ人】（50音順）

石山久男（歴史教育者協議会委員長）

小森 香子（詩人）

星野ひろし（東京空襲犠牲者遺族会会長）

小野寺利孝（弁護士）

早乙女勝元（作家）

前田 哲男（ジャーナリスト）

金子 勝（立正大学教授）

朴 慶南（作家）

本尾 良（市川房枝記念会理事長）

年7月に公布・施行するとともに、平和記念館基本構想懇談会、平和祈念館（仮称）建設委員会などの協議を重ね「東京都平和祈念館（仮称）」建設の取り組みをすすめてきました。

ところが、その後「都の厳しい財政事情」「展示内容のうち未だ議論の不十分な事実」があるとの都議会決議を理由に、東京都はこの「東京都平和祈念館（仮称）」建設を事実上「凍結」してしまいました。

しかしながら、今日、都当局も認めているように「都の厳しい財政事情」は、すでに克服されています。あとは展示内容についての都議会での議論をすすめて、東京都がその気になりさえすれば、「平和祈念館（仮称）」を建設できる状況です。

今日、東京都が平和祈念館を建設する意義はいよいよ重要となっています。

したがって都議会で、「展示内容」についての議論をすすめて、合意をはかり、「凍結」を解除して「東京都平和祈念館（仮称）」を一日も早く建設することを強く求めます。

氏 名	住 所

【事務局団体】

「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会

〒102-0084

東京都千代田区2番町12-1エデュカス東京
東京総合教育センター気付

電 話 03-5940-6088

FAX 03-5940-6087

【取扱】